

7 第6学年の取り組み

(1) 算数チャレンジの取り組み

| 時 期 | 内 容 |
|----------------------------|---|
| 1学期初め頃 (算数のオリエンテーションの時) | <ul style="list-style-type: none"> 算数チャレンジの目的と方法を伝える。 宿題として算数チャレンジに取り組みさせる。 |
| 1学期の中頃、終わり頃 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書に書きこみをしている児童、自主学習ノートに行っている児童を全体で共有する。 |
| 2学期の初め頃 | <ul style="list-style-type: none"> 算数チャレンジの目的と方法を再確認する。 |
| 2学期の中頃以降 | <ul style="list-style-type: none"> 算数チャレンジを前提とした授業を展開する。 授業の前半部分は確認しながら短時間で進め、習熟に取り組む時間を確保していく。 |
| 1, 2学期を通して | <ul style="list-style-type: none"> 書きこみをしている児童の教科書や、自主学習ノートに算数チャレンジをしている児童のノートを学級通信や自学通信にて児童や保護者に知らせる。 |

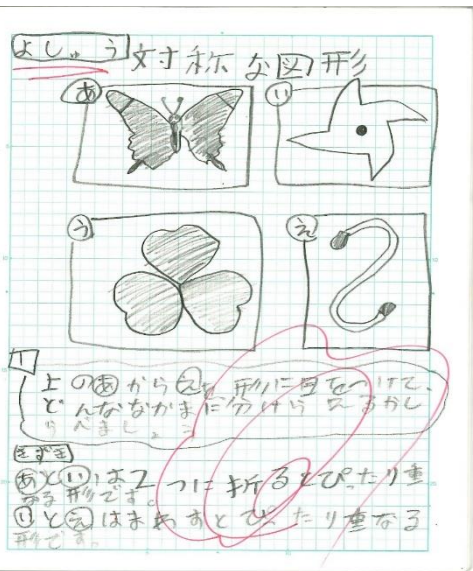
(2) 算数チャレンジ・数学的表現活動の工夫に取り組んだ成果 (◎) と今後の課題 (●)

- ◎授業の内容をつかむ時間が短縮され、進度を速めることができた。その結果、児童同士の考えを交流する時間や、個別指導や適用問題にかける時間を確保することができた。
- ◎算数チャレンジをしてから授業に臨むことが基本になっているので、学習の見通しをもって授業を受けることができる児童が増えた。問題について考える時間が増えていることで、問題に対する自分の考えを式や言葉など様々な方法で表現することができるようになってきている。
- ◎適用問題に取り組んだ後、ミニ先生や計算ドリル、タブレットやプリントでの復習など、自分に合った習熟のやり方を児童が自分で選ぶことができていた。
- ◎その日の授業の内容を知ったうえで学習に取り組むので、自分の考えを書くことができる児童が増えてきた。それにより、児童同士の考えを交流する活動が活発になり、友達の考えと自分の考えを比べながらより深い学びを展開している児童もいる。そのため、算数アンケートでは「友達の発表と自分の考えを比べて、より良い考えを見つけようとしていますか。」という質問に、アンケートに答えた全員が肯定的な回答をしている。
- 算数チャレンジに取り組んでいない児童に対するアプローチが難しかった。学級通信や学級での声掛けは行っていたが、それだけでは習慣化には到達できなかった。もっと児童にとって「算数チャレンジに取り組むとこんなに良いことがある！」という実感をもたせる手立てをとる必要があった。実際に算数チャレンジに習慣的に取り組んでいる児童にどんなところに役立つか発表してもらったり、1学期や2学期はじめのオリエンテーションの時に児童のノートや授業の様子、データなどをもとに話をしたりして、高学年だからこその取り組みを考える必要があったように思う。
- 自分の考えを式などを使って表現することができる児童は増えたが、算数アンケートを見ると「自分の考えを理由を言いながら説明することができますか。」という問いに「あまり当てはまらない」と回答している児童もいる。考えは書けるがどう説明したらいいかわからない児童もいると思うので、説明の仕方や上手く話せている児童を紹介するなどしていきたい。

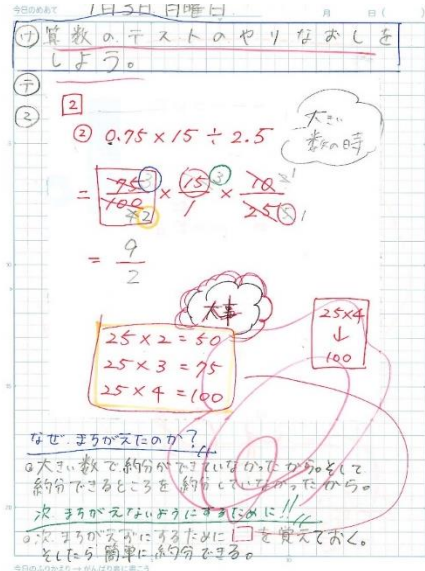
(3) 目指す児童の姿として参考となる資料

【算数チャレンジや復習をした自学ノート】

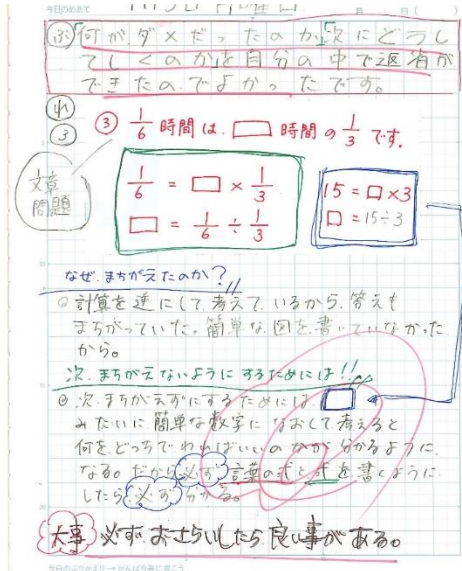
算数チャレンジを自学ノートで取り組んでいる児童も多い。自分の手で問題を書いたり、整理したりすることでより深く問題について考えることができるのではと感じる。また、テストのやり直しやその日に習った内容を自学ノートにまとめる児童も多く、自分自身で大事なポイントやなぜ間違えたのかを考えながらまとめることができている姿が見られた。(資料1、資料2)



資料1



資料2



【授業中に自分の考えを交流する児童】

授業の中で自分の考えを書けた児童同士で交流する姿が見られた。自分の考えを他者に説明したり、友達の考えを聞いたりすることで学習が深まる様子が見受けられた。また、中には問題に苦戦している友達に対して、問題を解くためのヒントや解き方を率先して教えに行く姿も見られた。問題が解けない児童も分からない部分を素直に友達に聞くことができたり、ミニ先生として教えている児童もより分かりやすい言葉や説明の仕方を心掛けていたりと学び合いの良いサイクルが授業の中で生まれていた。(資料3、資料4)



資料3



資料4